

## 2 蓮華蒔絵香合 白山松哉

明治三十七年（一九〇四） 蒔絵  
径八・三、高二・五

一点



明治三十七年の日本美術協会美術展覧会に出  
品され一等賞金牌を受賞、宮内省の買上げを受  
けた作品である。収納箱に「光明皇后宮御持仏  
輪後光謹摸」の箱書きがある。この御持仏輪後  
光とは、香合の意匠から見て光明皇后の母であ  
る橘夫人の念持仏、阿弥陀三尊像（国宝、法隆  
寺蔵）の光背のことであろうか。白鳳時代（七  
世紀）の佛像莊嚴の意匠を参考とし、小さな香  
合に蓮華文を中央に大きく配した作品である。  
蓮華文は高蒔絵、その周囲は金地に仕立てて放  
射状に細かに線刻を施し、縁回りには唐草の連  
続文を配している。高蒔絵の切り立った稜線、  
流麗な蒔絵の線、均一に仕立てられた金地など、  
精緻な技が尽くされた品である。底裏に方印  
風の「松哉」の蒔絵銘がある。作者の白山松哉  
（一八五三～一九三三）は、明治三年より小林好  
山のもとで蒔絵を学び、十三年から起立工商会  
社に勤務、羽毛を繊細に表した研出蒔絵を始め、  
秀でたその技術により名を知られるようになり、  
同社より松哉の号を与えられた。小川松民没後  
の明治二十四年から東京美術学校の助教授とな  
る。二十六年には同校を辞任するが、三十八年  
に教授として復帰し、翌年には帝室技芸員に任  
命された。

## 1 鬼神置物 山田鬼斎

一点

明治二十二年（一八八九） 木彫、彩色  
二一・五×二六・六×九三・五

右手で宝塔を掲げ、全身に力をみなぎらせる鬼神  
像である。躯体は一木造で、宝塔と岩座は別材によ  
る。表面は全体に着色されて暗色を呈しており、艶  
がある。黒目の部分には黒檀であろうか、黒い木材  
を嵌め、さらにその輪郭に金輪を嵌めている。背面  
に「鬼斎作」の彫銘がある。作者の山田鬼斎（一八六  
四～一九〇二）は、現在の福井県坂井市三国町の仏  
師の家に生まれた。父のもとで彫刻を学び、寺社建  
築や仏像の彫刻に携わっていたが、明治十九年二十  
三歳の時に、同郷の岡倉天心を頼って上京する。明  
治二十一年の京阪地方への古社寺宝物調査に同行  
し、古典彫刻の研究を深めた。本作は、その翌年の  
日本美術協会美術展覧会に出品され、宮内省の買上  
げとなった作品で、宝物調査による研究の成果が表  
されている。鬼斎は、明治二十三年より東京美術学  
校（現東京藝術大学）雇となり、高村光雲のもとで《楠  
公銅像》や《西郷隆盛銅像》の木型彫刻にも参加した。  
二十九年には同校教授となり、伝統的な木彫技術に、  
西洋彫刻の造形表現を結びつける近代彫刻の可能性  
を見だし、研究と後進の指導に取り組んだが、三  
十四年に三十八歳の若さで没した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan